

発行する。

(4) 図書目録、収蔵資料集などを計画的に出版物として公開する。

(5) 当館の活動状況は年2回の「くすり博物館だより」を発行し、関係者や来館者に活動状況をお知らせする。

5. まとめ

資料を集めることは、一時の熱意で程度の差はあるが、何とかできよう。問題は、その後の継続収集と維持管理、活用である。このことをよく考えて、どのような資料館(または室)を設立しようとするか、コンセプトを明確にする必要がある。

これらを実行するためには、この仕事が好きで能力ある人材も必須である。それと継続性を保証する財政的基盤である。本テーマのキー・フレーズは「コンセプト」「継続」「ヒト」「金」です。

27

三輪 卓爾

一口に医史料と言っても性格はさまざまだが、その扱いは大別すれば中央化する方向と個別に対処するものにな

りましょう。史料館を造るというのは前者の代表的なもので、後者には覆刻版の作製といった例が考えられます。覆刻版を万人に入手可能な形で世に送ることは多くの場合至難と思うが、それが史料館的な場所での入手・寄贈その他である程度行き渡っていれば、利用価値は倍増といった域に止まらないと思います。

医史料館の創設に関しては少なくとも検討の進められたものを一、二件聞いたように思うが、もし幸いに複数が緒につくのであれば、なるうことなら一地域に偏在しないことを望みます。難しい問題が多々あることを予想の上で言うなら、医学部図書館の分館(分室?)のような形にはできないものか、知恵者の多い会員各位の叡知にまちたいと思います。

最後に、学会誌の編集委員として、十年近く前に「史料との出会い」というシリーズものを企画しお願ひしたことがありますが、数名の方で頓挫したままです。今回の動向とからんで再度推進して頂けたらと思います。